

〔共済連だより〕

家畜診療日誌

春の訪れ感じてますか？

真庭家畜診療所 蒜山支所 藤井 蘭

ぽかぽか陽気に誘われて、色々な虫がそこらかしこに発生する季節になりました。春ですね。桜、菜の花、新緑など春の訪れを感じる風物詩はたくさんありますが、やっぱり身をもって春を実感するのは「虫」ではないでしょうか。

花から花へ飛ぶ蝶々。指先にとまらせれば、太陽めがけて飛んでいくてんとう虫。堆肥のそばを歩けば、ふわっと黒い雲になるコバエ。

私が何よりも春を実感するのは「ブト（ブヨ）」です。こいつは最悪。暖かくなるとどこからともなく現れ、人の隙を狙って確実に血を吸いに来ます。いったん血を吸われると、真っ赤にパンパンに腫れる。そしてとにかく痒い。安い虫刺されの薬は気休めにもならず、一度治まっても5日ほどしてうっかり搔くとまた腫れます。腕やおでこを狙ってくるため、私の同期はチャーミングポイントのおでこがでこぼこのやかんの様になっていました(笑ってはいけません)。「都会からきたけえ、免疫がないんじやろー」とからかわれたりしますが、ここ蒜山のブトは規格外です。そのへんのヤブ蚊よりずっと大きく、さらには狡猾です。主に和牛農家に多発し、子牛の細い静脈に必死で針を刺そうとする未熟な獣医が格好のカモであることを覚え、露出している部位に群がってきます。左手の甲を刺されて手全体がグローブのようになり手を握れなくなり。右まぶたを刺されてお岩さんのように目が開かなくなり。抵抗できないのをいいことに、やつらはやりたい放題です。ある時、いつものように子牛の診療をしながらブトにたかられる私を見て農家のお爺さんが「いいものがあるけえ！」と走って何かを取りにいきました。戻ってきたお爺さんは、点滴を刺そうと子牛のそばにしゃがみこんでいた私に「これがええ！」と後ろ

から何かをふりかけます。何だこりゃ！やたらと気管に刺激が……。咳き込みながら振り返ったら、「キョーチョール」でした。私ごと駆除される場所だったのでしょうか。お爺ちゃん、気持ちは嬉しいけど。ほんとは私のこと嫌いなのかな……。と別の涙が出ながらお礼を言いました。

あと、忘れちゃいけないカメムシ。大きな羽音が聞こえたら、やつらがどこに潜んでいるか気を配らなくてははいけません。私の上司は津山からカメムシをお尻に敷いて出勤し、事務所に着いたなり「診療所がカメムシ臭い！」と言っておられました。もう一人の上司は朝一で診療車の中でカメムシを踏み、憂鬱な顔で一日を過ごしていました。あの匂いはなかなか強烈です。今までの人生であまりカメムシに出会ったことがなく、「ガムテープでそっと捕まえ餃子を包むように二つ折りにして捨てる」という的確なカメムシ駆除方法は就職してから教わりました。

人よりも、牛が大きな被害を受けるのはダニとサシバエです。牛を放牧しているところではダニが媒介するピロプラズマ感染症に注意してください。発生場所に放牧する際には計画的な駆虫が必要です。乾乳期を他の牛より長く取った場合などは、うまく駆虫出来ない可能性もあるので気をつけてください。サシバエは、牛に大きなストレスを与え生産性に悪影響が出ます。詳しいことはあちこちに書かれているのでここでは割愛しますが、牛がやけに尾や肢を振ってイライラするなどのお悩みがあれば、近くの獣医師に相談してみてください。ところでこのサシバエ、診療車のボンネットでひなたぼっこするのが大好きです。叩き潰したりスプレーで一掃したりしますが、死骸がフロントガラスとボンネットの

岡山畜産便り 2011.03

間にどんどん入って行って取れなくなることもしばしば……。今どれくらいごっそりたまっているのでしょうか。死骸から新しい虫やキノコが発生することはないのでしょうか。考えると気持ち悪くなるので、考えないようにしています。

それでは皆様、心地よい春をお過ごしください。